

「世界をみつめ地域に生きる」。私が東京YMCAに入職当時使われていた標語である。東京YMCA創立100周年記

(1面の続き)

中 完 お二人にお会いして、世界とのつながりや、同じ方向に進んでいくという実感が湧きました。一人ひとりが主体的に動くために、変化の目的の共有以外に大切なことはありますか。

サンヴィー 東京YMCAは、世界YMCAというネットワークの大切な一粒です。その美しい輝きを、私たち全員が世界のために用いなければなりません。もしこの一粒がなくなれば、全体が崩れてしまいます。それが私からのメッセージです。

東京YMCAへのエール

戸坂 東京は世界とつながる大都市であり、変化のスピードも非常に速く、さまざまな可能性を秘めています。そうした都市で活動する東京YMCAへの期待はあります。

サンヴィー 日本や東京の存在感がやや薄れつつある中で、東京YMCAが「VISION150」によって再び前面に立ち、重要な役割を果たしてくれることを願っています。

サス 今、多くの動きがアジアに向かっています。その中で、日本は今後、世界の在り方を形作るうえで重要な役割を果たしていくでしょう。今回訪問で、東京YMCAが非常に高いレベルで、多くの素晴らしい活動を展開していることがわかりました。世界中の

多くのYMCAが皆さんから学び、交流し、つながることに非常に関心を持つはずです。皆さんもまた、他のYMCAとながら、学び合うことができるはずです。

日本の文化では自己主張を控える傾向がありますが、これは「自分たちが一番だ」と主張することではなく、他のYMCAを励まし、刺激を与える行動です。東京YMCAには、その力があります。世界YMCAとしても、できる限り皆さんと手を取り合い、共に歩んでいきたいと考えています。

星野 東京YMCAは、世界に目を向けながらも、まずは地域に根差した行動を大切にすべきだと考えます。この座談会を通して、東京という都市の可能性や、YMCAが何をすべきかについて、改めて考えることができました。

サス 「VISION150」は、「VISION2030」の柱や目標にしっかりとつながっている、とても良いアプローチだと思います。きつと、長い時間をかけて準備されてきたのでしょうか。

東京YMCAのように、「VISION2030」をここまで読み解き、具体的な実行計画に落とし込んでいるローカルYMCAは稀です。ぜひその取り組みを世界に発信し、他のYMCAのモデルとなってください。(まとめ 広報室)

ウクライナYMCA総主事による活動報告会 東京YMCAの友情に感謝



報告会で話すセルプロフ総主事

戦時下では生活や子どもの活動が大きく制限され、医療・教育施設、発電所など重要インフラの半分以上が破壊されました。それでもウクライナ、子どもやファミリーのキャンプが実現し、数千人が参加しました。屋外活動は危険なため、アーテラビーや音楽、読書会、室内ゲームなど屋内プログラムが中心で子どもたちはストレスを溜めています。それでも安全な場所で行われるキャンプやワークショップは、子どもたちに笑顔と安心をもたらし、ファミリーキャンプでは、親も心理的サポートを受けられます。

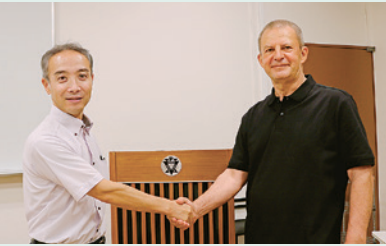
キャンプは、子どもたちの心を回復させ、未来への希望を持たせる大切な活動です。戦争によって安全な遊び場や集える場所が減る中、YMCAは心の拠り所となっており、支援金はその運営を支える重要な力となっています。

一方、スタッフやボランティアのメンタルケアも必要ですが、今年は資金難で、給与や被害を受けたスタッフの自宅の修理費も出せない状況です。

仲間からもう一歩、勇気と希望

ピクター・セルプロフ総主事は、「私たちが提供する読書クラブや英語への希望を持たせる大切な活動です。戦争によって安全な遊び場や集える場所が減る中、YMCAは心の拠り所となっており、支援金はその運営を支える重要な力となっています。」と、ウクライナYMCAの現状を述べました。

東京YMCAが20年以上交流を続けているウクライナYMCAのピクター・セルプロフ総主事が6月27日、初めて東京YMCAを訪れ、山手コミュニティセンターで活動報告会を行いました。両YMCAは、クリスマスカード交換やスタディーツア、インターナショナルクルールの生徒による交流などで平和な時代から親しい関係を築き、ロシアとの戦争が始まってからは東京YMCAが支援を続けています。



友情の握手を交わす星野太郎総主事(左)とピクター・セルプロフ総主事

東京YMCAから2025年6月までに送られた合計7万ドル(約一千万円)の支援により、リーダー養成プログラム、子どもやファミリーのキャンプが実現し、数千人が参加しました。屋外活動は危険なため、アーテラビーや音楽、読書会、室内ゲームなど屋内プログラムが中心で子どもたちはストレスを溜めています。それでも安全な場所で行われるキャンプやワークショップは、子どもたちに笑顔と安心をもたらし、ファミリーキャンプでは、親も心理的サポートを受けられます。



セルプロフ総主事(前列中央)を囲む報告会参加者

な活動です。戦争によって安全な遊び場や集える場所が減る中、YMCAは心の拠り所となっており、支援金はその運営を支える重要な力となっています。

一方、スタッフやボランティアのメンタルケアも必要ですが、今年は資金難で、給与や被害を受けたスタッフの自宅の修理費も出せない状況です。

仲間からもう一歩、勇気と希望

ピクター・セルプロフ総主事は、「私たちが提供する読書クラブや英語への希望を持たせる大切な活動です。戦争によって安全な遊び場や集える場所が減る中、YMCAは心の拠り所となっており、支援金はその運営を支える重要な力となっています。」と、ウクライナYMCAの現状を述べました。

YMCAからのメッセージ ③ 人を育て、世界へつなぐ



TYIS (東京YMCAインターナショナルスクール)・Kids Garden (英語幼児園) マネージングディレクター クリストファー・ホーランド

人を大切にできる歩み

東京YMCAのさまざまなプログラムや施設には、日々多くの方が訪れます。語学、スポーツ、保育、野外活動など、出会いや学びの場を通して人となりが、自らを成長させながら、社会に良い影響をもたらす。それは、東京YMCAが目指す「共に生きる社会」のかたちです。

創立から約150年、東京YMCAは時代とともに変化しながら「人を大切にできる」ことを基本に歩んできました。そして、その歩みの背景には、YMCAという国際的な団体だからこそ果たせる役割や使命があります。

グローバル・ネットワークを生かして

東京YMCAは、明治維新直後の新たな日本を模索する中で、キリスト教の価値観に触れ、西洋文化に見識が高い青年たちにより、日本の青少年の育成を願って誕生しました。1880年の創立当初から、「国際」というキーワードと共にあります。

北米に留学していた東京YMCAの主事・大森兵蔵が、アメリカYMCAのスタッフによって考案されたバスケットボール、バレーボールを日本に紹介し普及させたことは、広く知られていますが、他にも、フェンシング、ボクシング、レスリング、器械体操、デモンマーク体操、ハンドボールなど、日本ではまだ馴染みのなかったスポーツを次々に紹介し、多くの青少年に楽しい体育活動の場を提供するともに、指導者養成にも力を注ぎました。

1890年には「青年夜学校(後の東京YMCA英語専門学校)」を開校し、多くの青年が英語を学びました。

健康教育や英語教育だけでなく、多くの事業は、世界的な青少年団体であるYMCAのネットワークを生かし、世界のYMCAと共に学び、協力し、研鑽しながら行われてきました。

共に生きる力を育む

現在の東京YMCAにおいても、「国際」の視点は明確です。インターナショナルスクールや英語幼児園の運営だけでなく、海外YMCAのキャンプやプログラムへの参加、サッカーを通じた国際交流、キッズイングリッシュ(英語教室)の生徒とウクライナYMCAの子どもたちとのクリスマスカード交換、若者のYMCA国際大会への派遣など、多様な機会を提供しています。目的は、子どもたちが新しい世界に触れ、自然に異文化交わり・共生を身につけ、グローバルな視点で考え行動できる大人に成長することです。

日本で暮らす外国人のサポートも重要です。東京YMCAは、外国にルーツのある子どもたちが安心して自分らしく過ごせる居場所づくりや、ボランティアによる日本語教室を行っています。

変わる社会の中で守り続けたい価値

近年、東京の外国人居住者の数は増加傾向にあり、地域の多様性は確実に進んでいます。文化や言語の違いに戸惑う外国人にとって、生活情報、制度、災害対応へのアクセスは大きな課題です。東京YMCAは、こうした変化を見据え、その時々に応じた新しい取り組みを積極的に取り入れていきたいと考えています。国や文化、世代の違いを超えて支え合うYMCAのネットワークの中で、「すべての人が健康で、幸せに生きる社会」を目指し、地域に根ざしながら国際的な感覚を持ち続け、人と人をつなぐ存在でありたいと考えています。

中内俊一郎

働き方改革、メキシコY
MCAとアメリカ・サンデ
イエゴY MCAのパートナ
ーシップ「二つの国、一つ
のコミュニティ」である。
なかでもメキシコとサンデ
イエゴの国境を越えた活
動、日本文化が紹介され
た。

会議を通じて、さまざま
なY MCAのスタッフと
の情報共有や交流は、貴
識した。

（国際・総合教育事業部
統括 松本数実）

INFORMATION

■早天祈祷会(10月)■

会員有志が聖書について自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で祈り讃美歌を歌います。クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日 時：2025年10月1日(水)

7:00～8:00

奨励者：神谷幸男氏

(東京西ワイズメンズクラブ)

会 場：山手センター／オンライン

問合せ：会員部 (03-6278-9071)

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支援くださる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。



詳細はこちら



ワイズコーナー

Y'S MEN'S CLUB

Vol.30

世界につながるワイズメンズクラブ (3)

去る8月1日から3日にかけて、熊本で第31回アジア太平洋地域大会が開催されました。同大会には、世界18ヵ国・地域から540人を超える仲間が参加し、YMCAを支援する「世界につながるワイズ



「ラオスにYMCAを」と題して講演する大野嘉宏氏(左)、西村隆夫元国際事務局長(中)、小畑貴裕東京YMCA国際ホテル専門学校校長(右)

メン」をまさに体現する機会となりました。大会プログラムとしては、アジア太平洋地域会長の就任式、ワイズメンズクラブ国際協会の現況報告、アジア太平洋地域の活動報告などが行われました。

京都パレスクラブの大野嘉宏氏からは、「ワイズによるラオスでのYMCAの設立」について、進捗状況や今後の課題についての基調講演がありました。ラオス人民民主共和国にYMCAを設立するために、東京YMCA国際ホテル専門学校の協力を得て、まずホテル学校を設立することを計画。来年にはオープンするようですが、現地にYMCAを設立し、ワイズメンズクラブを立ち上げるためにはまだまだ道のりが長いようです。しかし、困難に立ち向かいながらも、多くのワイズメンの支援を得て、粘り強く目標に向かって活動が続けている姿に、ワイズ運動の意義や素晴らしさを感じるとともに、微力ながらもできる限りのお手伝いをしたいと思いました。その他、国際兄弟クラブ(International Brother Club)の締結式やショートビデオコンテストの表彰なども行われたりして、国際大会ならではの盛りだくさんの内容でした。

元アジア太平洋地域会長 利根川恵子(川越ワイズメンズクラブ)

東京YMCAメルマガ登録募集中

東京YMCAのプログラムやボランティアなどの情報をお届けします。月1～2回の不定期配信。登録はこちら

第27回愛恵エッセイ募集
～豊かな福祉社会を創るために～

東京YMCAは公益財団法人愛恵福祉支援財団と共催し、今年もエッセイを公募いたします。日常生活から得た気づきや提案をぜひお聞かせください。どなたでも応募いただけます。



【テーマ】—失くしたくないもの—

【締 切】2025年11月14日(金)必着

【対 象】学生の部、専門職の部、一般の部、外国籍の部

【表 彰】最優秀賞、優秀賞、佳作(賞状と賞金を贈ります)

【応募先】東京YMCA会員部内「エッセイ募集係」
(kaiin@tokyo ymca.org)

※「愛恵エッセイ」は、受賞作品を「エッセイ集」にまとめて配布することで社会への問題提起や福祉意識の拡大、アイディアの提供を図ることを目的としています。

詳細はこちら



9月末まで! ミャンマー地震緊急支援募金

3月28日に発生したミャンマー大地震の被災地支援のため、期間を延長して緊急支援募金を行っています。

皆さまのご協力をお願いいたします。

【募金期間】2025年9月30日まで

【募金の送金先】

◆三井住友銀行 神田支店

普通 7631486

ザイ) トウキョウワイエムシイエ

◆web募金はこちら(クレジットカード払い)

【お問合せ】東京YMCA会員部 (03-6278-9071)



被災したネピドーYMCA



募金の詳細はこちら

東京YMCA公式SNS

東京YMCAは、「青少年の成長」「誰もが自分らしくいられる社会となること」を願い、キャンプ・保育・国際・ウェルネスなど、さまざまな分野で活動をしています。それぞれの活動やイベント情報などをSNSで発信していますので、ぜひ多岐に渡るYMCAの取り組みをご覧ください。

Instagram



<https://www.instagram.com/tokyoymca/>

x (旧Twitter)



https://x.com/Tokyo_YMCA

Facebook



<https://www.facebook.com/tokyoymca>

体験型活動事業 「わくビレ自然調査隊 秋」

小学生の親子を対象に、わくわくビレッジの森やビオトープにいる生き物の調査を行います。

調査隊になって双眼鏡や顕微鏡を使用して、観察するだけでなく、パパやママのスマートフォンで生き物の写真を撮って調べたり、みんながわかるように情報の共有化を図ったりします。

前回作った「BEE HOUSE」のその後の様子や、歩きまわる昆虫をとらえる罠、「バイトトラップ」にどんな生き物がいるのかも観察します。そして、外来植物であるセイタカアワダチソウなどの駆除も行います。子どもも大人も、専門家の方に教わりながら、普段できない研究調査を行いますので、この機会にぜひ調査隊の一員になってみませんか?

詳しくはお電話またはフロントにてご確認ください

高尾の森わくわくビレッジ

☎ 042-652-0911

〒193-0821 八王子市川町55
www.wakuwaku-village.com

高尾の森わくわくビレッジはYMCAスタッフが運営しています

開催日 2025年11月29日(土) 時 間 10時～16時
対 象 子どもが小学生の親子
定 員 15組 ※定員を超える場合は抽選
費 用 ひとり1,430円(税込) ※昼食代含む
(大人1名 子ども2名の場合は4,290円)
申込み 9月1日(月)～10月20日(月)

応募方法：メール(event@wakuwaku-village.com)に以下を記入の上ご応募ください。①参加者全員の氏名(ふりがな)②年齢/学年③郵便番号・住所④電話番号⑤何でイベントをお知りになりましたか?